

第1回子ども・子育て会議 会議録

会議名	第1回子ども・子育て会議
日時	令和3年3月22日（月） 午後2時00分～午後3時00分
会場	村上市役所本庁5階 第5会議室
出席者	委員：11人（仲委員、富樫委員、竹内委員、神田委員、剣持委員、齋藤委員、黒子委員、長委員、加藤委員、本間委員、鈴木委員）
	欠席委員：國田委員、平野委員、上島委員、大滝委員
	事務局：中村こども課長、保健医療課 中川副参事、木村福祉課長、学校教育課 船山課長補佐、荒川支所地域振興課 阿部課長補佐、神林支所地域振興課 加藤課長補佐、朝日支所地域振興課 中嶋課長補佐、こども課 小林副参事、石山係長、高橋課長補佐、大倉主任

会議録

1 開 会

2 委員長挨拶

3 自己紹介

4 情報提供

(1) 令和3年度各課事業について

こども課、保健医療課、福祉課、学校教育課より説明。生涯学習課は欠席のため資料を配布。

加藤委員：各課からの説明について、口頭だけでなく生涯学習課のように資料の提供をお願いしたい。

こども課：各課で本日説明した内容については、資料の形にして後日送付させていただく。

5議 事 ※委員15名中11名の出席により審議会成立を報告。

「村上市子どもの貧困対策計画の策定について」事務局から説明

委員：アンケートについて、村上市の子ども全員、全世帯を対象として行うのか。アンケートの内容について、デリケートな部分もあると思うがいかがか。

こども課：現段階では、保護者、児童生徒両方へのアンケートを想定している。対象については、学齢を区切りたいと思う。例えば、小学1年生、小学5年生、中学2年生、高校2年生などとし、対象学齢の村上市の児童生徒全員とその保護者とする想定しているが、来年度の会議の中で検討を行っていきたい。

委員：子どもの貧困対策は重要かつ早急な対応が求められる。説明では今後2か年計画で審議を行っていくとのことであったが、今現在、行政からの支援が必要なほどの家庭は存在しないということか。

こども課：現時点でも支援が必要な家庭は存在しており、児童扶養手当等、様々な施策は行われている。今回、すでに行われている施策以外にどのような支援が必要か検討していく。そのために村上市での子どもの貧困の実態を正確に捉える必要があり、その実態に即してどのような対策が必要なのか検討し計画を策定していくこととなる。

委員：子どもの貧困対策について、支援を必要とする家庭が声を上げるのを待つのか。もしくは行政が健診などのタイミングで積極的にそうした家庭の把握を行い支援を行っていくのか。

こども課：まずはアンケート調査による実態把握が必要であると考え。そのほか、支援を求める声に対しては随時、対応を検討していくこととなる。

委員：保護者、児童生徒へアンケートについて、自身の貧困に気付いている保護者、児童生徒もいるであろうが、本当に支援が必要なのは、本来であれば支援が必要であるにもかかわらず自分が貧困であると気付いていない保護者、児童生徒ではないかとも考える。アンケート以外にも、子どもの貧困について実際を知っている支援団体や関係機関で把握している案件とも照らし合わせたアンケートとすることが望ましいのではないか。

こども課：貧困を前面に出した調査ではなく、生活の実態調査という形でアンケートを行う。どのように貧困の実態を吸い上げていくかというところでは、調査・計画策定にコンサルを入れる予定であり、コンサルの意見もふまえたい。また、保護者、児童生徒に行うアンケートとは別に、支援者についてもヒアリング又はアンケート調査を行う予定としており、様々な意見を反映していききたい。

委員：貧困の定義とは。また、保護者と子どもにアンケートを行うとのことであったが、子どもへのアンケートについては、保護者の意図や影響を受けてしまわないよう、学校に協力しても

らい、校内での記入・提出を行うなどの工夫を行ってはどうか。回収率向上や子どもの意見
吸い上げのためにも学校へ協力を依頼してはどうか。

こども課：貧困の定義については、これまで計画を策定した市町村でも定義が分かっている。多いもの
では、等価可処分所得の中央値の1/2未満であることが貧困とされている。貧困の定義付
けについても会議で審議を行っていききたい。アンケートの実施方法については、学校の協力
を得ながら、委員からの提案方法も含めて検討していききたい。

委 員：アンケートについては、いつ時点での回答を求めるかも重要であると考え。村上市では新
型コロナウイルス感染症による影響で令和3年度以降に困窮する世帯が増加すると考えら
れるため、調査時期についてもご考慮願いたい。

こども課：アンケートでの設問をどのように設定するかにもよるが、通常は昨年度の収入所得を求める
こととなる。

委 員：貧困は経済的な視点だけとするのか。

こども課：貧困の定義付けについて、等価可処分所得だけでなく滞納状況などそれ以外の要素も多角的
に判断し貧困を位置付けている自治体もある。どのように貧困を定義づけるかについても会
議を通して検討を行っていききたい。

委 員：経済的、物質的な面だけでなく精神的な面も貧困の対象とするのか。

こども課：他市の例では、経済的な面での貧困が計画の中心となっている。精神的な面での貧困、その
ケアについては他施策を展開して対応を行っており、本計画に取り込むことが出来るかは研
究を行っていききたい。

委 員：物質的な充足よりも、子どもたちが地域に誇りを持てるなどといった精神的な面での充足が
大切な面もあるのではないかと考える。

こども課：どのような面から貧困を捉えるかについて、今後の検証もふまえて研究していききたい。

委 員 長：事務局の説明では、アンケートにより村上市の子どもの貧困の状況をつかみ、その状況を出
発点として議論を行っていくとのことであった。しかし、貧困の捉え方について委員から多
数の質問が出た。まずは事務局で村上市の子どもの貧困をどう捉えるか、どういった問題が
あるかについてある程度の共通認識を持ち、そのうえでアンケートを行い、検証・確認して
いくことが必要ではないか。限られた時間の中で、共通認識がない中でのアンケート調査、
議論を行っていくことは得られるものも少なく難しいのでは。

こども課：アンケート実施前にも2回、子ども・子育て会議を計画している。アンケート後にも計画策
定まで4回、子ども・子育て会議を行う予定である。子ども・子育て会議の中で検討を行っ
ていききたい。

委 員：フードバンクや制服のリユースなど実際に村上市で支援活動を展開している団体がある。そ
うした団体から聞き取りした実情について知ったうえで、子ども・子育て会議で検討を行う

ことが有用ではないかと考える。

こども課：支援者に対するヒアリングやアンケートについては早い段階で実施し、委員にも提示できるようにしていきたい。

委員：貧困の定義について、物質的なものだけでなく精神的なものもあるとの意見に同感である。また、貧困に至った背景も検証する必要があるのではないか。今後、村上市として子どもの貧困をどう捉えていくのかとの議論では、貧困が出現している背景についても会議での検討を行い、学校など各分野でどのように対策を行っていくかということに及んでいくであろうと考える。学校としても協力していきたい。また、子どもたちが地域に誇りを持てるための地域との関わりといった面も市内全校でも非常に重要視している。

こども課：学校からの協力も是非願います。

委員：現段階で、アンケートではどのような情報を求めようとしているのか。

こども課：国からの指針や例示はあるが、具体的な内容については現段階では未定である。

委員：貧困対策といっても幅広い。それぞれ各自治体で考えていくといった面はあろうが、村上市としてどのような支援を行っていくかといった素案や、その支援を行っていくためにアンケートで求めている情報といったものはあるか。

こども課：現時点では作画的なものは持っていない。アンケートについては国の指針をふまえた上で、会議での意見も取り入れ検討を行っていきたい。

委員：例として、教育分野では児童生徒へのタブレット端末の配布やオンライン授業などに関連し、各家庭の経済状況で光回線やWi-Fiの有無などに影響してくると考える。そうした状況への対策が貧困家庭に対する学力支援や勉強の場づくり支援などへもつながるのではと考えた。

こども課：委員からの活発な意見に感謝する。当然のようにあると考えるものが「無い」状況、そうした状況への支援など、委員の提案以外にも比較対象となるものはあろうと考えられる。コンサルも活用した上で、この会議で検討を行いたい。次回以降の会議でもご意見をお願いしたい。

委員：提案として、生活保護を受給している子育て家庭に対し必要な支援についてヒアリングを行うなど、現時点で行える困窮世帯への聞き取りを行うことで具体的な意見が吸い上げられるのではないかと考える。そうした意見を次回の会議で議論のたたき台とすることで、必要な対策やアンケートの内容についても検討出来るのではないかと考える。

こども課：貴重なご意見として。

委員長：今回の会議は、顔合わせやテーマの確認の意味合いが強かった。今後の会議でも委員からの意見、情報提供をお願いします。事務局に対しては、委員の意見を実り多きものとするため、行政で把握している子どもの貧困の状況について、より具体的な情報提供をお願いしたい。

委員：今後も積極的に協力を行っていきたい。また、児童権利条約など子どもの貧困対策に関わる

ことについて勉強していきたい。

委員長：委員に対し、児童権利条約など事務局から改めて情報提供をお願いしたい。

6 その他 特になし

7 次回の会議日程について 令和3年6月頃開催予定

8 閉会のあいさつ 富樫副委員長

午後3時00分 終了